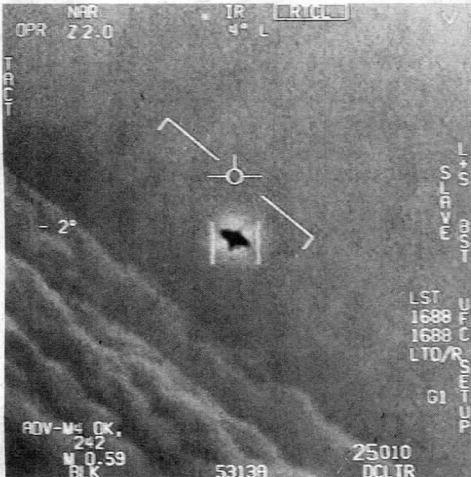


UFO正体

国内外で活発化している。米
国では目撃情報などの分析
を行う専門機関が設置され
ており、同様の取り組みを
日本政府に求める超党派の
議員連盟が昨年発足。専門
家は「社会の不安感の反映
では」と指摘するが、UFO
を町おこしに活用してい
る自治体では、ブームの再
来に期待が高まっている。

米に専門機関、国内でも動き

説明進む？



米国防総省が2020年4月27日公開した、海軍機パイロットが撮影した不審な飛行物体の映像（時事）

米政府は幅広く「未確認異常現象（UAP）」と位置付け、専門機関を設立して調査・分析を進めている。1月に就任したトランプ米大統領は選挙期間中、人気ポッドキャスト番組でのインタビューでUAPに関する情報公開について問われ、「そつしなければならぬ」と強調した。

日本でも昨年6月、超党派の国会議員が「安全保障から考える未確認異常現象説明議員連盟」を発足させた。通称「UFO議連」では、UAPを扱う国内機関を設置し、米側と連携するよう政府に求めている。発起人には石破茂首相も名を連ねた。

宇宙航空研究開発機構（JAXA）の元広報部長 近年もロシアのウクライナ



宇宙人などに仮装した人でにぎわった福島市飯野町のUFOフェスティバル。2024年11月9日

未確認異常現象（UAP） 未確認飛行物体（UFO）を含め、空中や海、宇宙空間で発生する異常現象の総称。米国防総省は国防上のリスクと捉えて専門組織「全領域異常解決室（AARO）」を2022年に設置。米航空宇宙局（NASA）も専門的に研究するチームを発足させ、目撃情報の分析などを行っている。

あり、「何かが飛んでくる」という緊張感があるのではないかと話す。

「UFOの町」として知られる石川県羽咋市にある宇宙科学博物館「コスモアイル羽咋」は昨年の能登半島地震で被害を受け、入館者数が半減した。しかし、UFOと農業を組み合わせた8月のイベントには約2000人が参加。同館の営業主任高野誠明さん（35）は「宇宙への関心が高まれば、施設をもっと知ってもらえる。今年は能登に明るい話題が飛び込むといい」と期待する。

目撃情報が多く、92年に「UFOふれあい館」がオープンした福島市飯野町では、米国での動きを受けて2021年に全国初のUFO研究所を開設。昨年11月には3回目の「UFOフェスティバル」を開催し、人口5000人の町に、宇宙人の仮装をした約4000人が集まった。

研究所では写真など千数百点の情報が寄せられているという。ふれあい館の菅野利男館長（74）は「UFOとは究極的には何なのか、説明を待っている」と国内外の動きを見守っている。